

企業ニュース 東レ

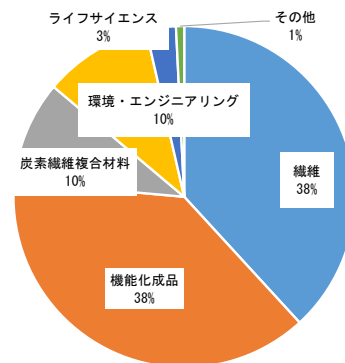
(東証1部 : 3402) <https://www.toray.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

国内大手繊維・化学メーカー

1926年、旧三井物産の出資により人絹の製造を目的に、東洋レーヨンとして設立された国内大手繊維・化学メーカー。1941年、ナイロン6の熔融紡糸に成功。ナイロンは米国デュポン社が1938年に開発した合成繊維だが、同社の特許との抵触を避け独自技術により開発した。その後、3大合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル）の事業拡大に取り組む一方、プラスチック、合繊原料など多角化に取り組んできた。1963年にレーヨン糸生産を収束したこともあり、1970年、現在の社名に変更した。軽くて（鉄の1/4）強い（同10倍）炭素繊維のトップメーカー。炭素繊維は飛行機の構造体や風力発電用ブレード（翼）、圧力容器などに用いられている。

◇21.3期売上収益構成比



(出所) 東レ資料よりCAM作成

繊維、炭素繊維複合材など需要回復

21.3期の連結業績は売上収益が1兆8,836億円、前期比10%減、事業利益が903億円、同28%減。新型コロナ影響もあり、環境・エンジニアリング以外すべてのセグメントで減収、コスト削減に取り組んだが、販売数量減の影響を補えず、事業利益も減益となった。繊維は医療用白衣地・マスク用途での不織布需要の増加や、下期には自動車用途での回復はあったが、衣料用途での需要低迷を補えなかった。炭素繊維複合材料では風力発電用ブレードの需要は堅調に推移したが、民間旅客機の生産減少の影響で大きく落ち込み、事業利益は赤字に転落した。

22.3期連結業績の会社計画は、売上収益が2兆1,200億円、前期比13%増、事業利益が1,200億円、同33%増。先行きの不透明感が強いと見られ、経済回復は穏やかなペースになると想定。繊維ではスポーツ、カジュアルウェア向けの拡販、エアバッグ用基布や人工皮革など自動車用途の回復を見込む。炭素繊維複合材料では航空機用途での厳しい経営環境は継続するが、底打ちの兆しが見えている模様。風力発電用途などの伸長もあり、下期は黒字転換する計画。機能化成品では、EV用バッテリーセパレータの需要拡大を見込む。

[株価動向・投資判断]

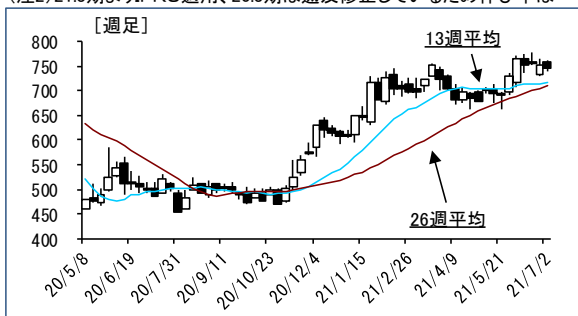
脱炭素関連銘柄として注目度は高い。航空機向け炭素繊維に、需要回復の兆し。同事業の黒字転換確認は、業績再評価の機運を高めよう。自動車関連市場の回復も業績をけん引しよう。

<3402 東レ 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	事業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	2,091,166 (-)	125,532 (-)	123,304 (-)	84,230 (-)	52.7	16.00
21.3	1,883,600 (▲ 10)	90,265 (▲ 28)	65,566 (▲ 47)	45,794 (▲ 46)	28.6	9.00
22.3 予	2,120,000 (13)	120,000 (33)	- (-)	80,000 (75)	50.0	16.00

(注1) 事業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出
 (注2) 21.3期よりIFRS適用、20.3期は遡及修正しているため伸び率は「-」表示



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/7/2)	745.3 円
年初来高値 (高値日)	776.4 円 (21/6/16)
同 安値 (安値日)	593.3 円 (21/1/5)
予想 P E R (22.3 予)	14.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	773.1 円
P B R	0.96 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年16.00円)	2.15 %
R O E (21.3)	3.9 %
発行済み株式数	163,148 万株